

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	NPO 法人 高知県介護の会	代表者	豊永 美恵	法人・事業所の特徴	その人がその人らしく地域で生活が送れるよう念頭に、利用者のニーズの把握に心がけている。特に接遇は中でも一番と考え、全職員が一丸となって取り組んでいる。その為には、地域住民との協力が大切で、地区区長や民生委員の方々を中心にボランティアの輪が出来ており、沢山の方々が当事業所の行事に参加・協力して頂いている。当事業所はあったかふれあいセンターも運営してり、地域住民とも交流が盛んである。近隣の保育所・小学校からは、生徒並びに教員の方々も積極的に慰問・ボランティア等も務めていただいている。利用者の家族の方々も同様に、全員で要介護者の支援をしている。
事業所名	小規模多機能施設 えびす	管理者	金子 真由美		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	2人	人	人	1人	人	2人	人	6人

項 目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	感染状況にもよるが、ミーティングへの参加はほぼ全員が、出席できるように、職員の意欲向上を目指す。	以前、他部署では会への参加が少なかった職員もいたが、小規模への移動により、参加が増えた職員もいる。ミーティングへの参加も出来ている。職員の意欲向上は見られている。	感染症が蔓延してクラスターなどの危険性もあり、リスクを考えると、できる範囲の計画になっている。しかし花見見物のドライブや調理レクなどは出来ている。園庭でのよさこい見物は、利用者様が大変喜ばれた。	職員全員の意欲向上を目指し、介護技術のスキルアップも目指す。
B. 事業所のしつらえ・環境	家族や地区の方々が事業所への来所が少なくなっているが、いつ来られても良い様に掃除をしつかり行う。玄関はきれいに片づけて、作品を飾ることが出来るようにしたい。	家族の方々は来所され面会を行うが、事業所では、玄関にて面会を行う為、利用者様が生け花を飾り、掃除は細目に行っている。居心地のいい空間にしたいと、職員は工夫を凝らしているが、作品を飾る事は出来ていない。	日中鍵を閉めず、家族や地域の方々がいつでも来られるようにしているが、感染症などで制限等あり。以前より制限は緩やかになっているが、職員と利用者様の手作り作品はホールにて展示されている。	玄関はきれいにしているが、季節を感じられる、職員と利用者様が作った作品は、飾る事が出来なかったもので、今回は展示したい。
C. 事業所と地域のかかわり	感染対策に今一度注意を払い、クラスターにならないように、室内の換気や消毒を徹底し、職員全員が、気を付ける。	感染症対策に気を付け、換気や消毒も頻回に行っている。感染に対しての職員の意識も高まっている。また加湿器なども利用して、室内が乾燥しないように気を付けている。	感染症も少しは落ち着きが見られるようになったが、時折、流行り始めたりして、なかなか地域との交流が以前のように出来ない。また小規模の利用者様の状態が低下して、リスクを考えると、関わりが難しい。	事業所自体は地域に浸透しているが、地域の方々の顔も解らない職員もいるため、せめて区長や民生委員の方々とは、運営会の参加で来所される時などに、顔見知りになればと思う。

D. 地域に出向いて 本人の暮らしを 支える取組み	行事やイベントが出来ない分、職員全員がレクリエーションに力を入れ、利用者様が笑顔で楽しく暮らせるようにする。	レクが得意分野の職員は良いが、レクの苦手の職員もいるので折り紙や塗り絵、散歩などできる範囲で行っている。歌が好きな利用者様と一緒に歌い、踊り、楽しさも提供している。調理レクやドライブなどできる範囲で行っている。	感染症などによりリスクを伴う為、外へ連れだす事は少なくなっている。しかし園庭では日向ぼっこや散歩を行っている。利用者様を地域に連れて行っても、家すら忘れていた方もおり、連れて行くのも、少人数で行く方がよいと思われる。	レクの不得意な職員の為、レクの得意な職員は、レクの指導やレク用品のレクチャーを行う。天気の良い日は散歩なども行い、利用者様に外の風を感じて頂く。
E. 運営推進会議を 活かした取組み	世間の感染状況にもよるが、感染対策をしっかり行い、クラスターにならないように注意し、運営推進会議が毎回開催出来るように取り組む。	感染症によりクラスターにはならなかったが、利用者様や職員がかかる事あり、資料の提供だけに終わった回もあり、毎回の開催にはならなかった。	運営会での意見交換も出来ている。事業所の取り組みも理解して頂いている。運営会で出た意見は改善も出来ている。運営会、日々の事業内容などを報告しているが、感染症などで事業内容も少なくなっている。	運営推進会議の開催に向けての取り組みの有無が解っていない職員もいるため、職員会などで説明をし、理解を深めるようにする。
F. 事業所の 防災・災害対策	災害時、利用者様だけでなく、地域の方々に援助が出来るように、地域との繋がりを大事にし、職員全員が防災についての知識を向上させる。	職員は防災についての知識は、年数回の防災訓練を行い、地域との避難訓練なども参加しており、訓練後は初期消火やAEDなどの取り扱いなどの訓練も行っている。	以前、停電になった時、懐中電池はすぐにあったが、防災用のランタンが見当たらず、皆で探したことがあった。置き場所はきちんと決める事が大切だと思う。使ったらもとに戻す。災害時には地域の方々の助けもいると思うので、地域の方々との顔見知りになる事も大切だと思う。	防災グッズは必ず、職員全員が置き場所を把握して使用したらもとに戻す。いざという時の為に、日々の確認も行う。